

発見! すてきな病院

医療法人社団明生会

琴似ロイヤル病院 (札幌市西区)

内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、外科、整形外科、泌尿器科、リハビリテーション科、人工透析（血液透析）ほか
183床（一般33床、HCU3床、障害147床）
一般病棟入院基本料 7：1



チームワークが自慢の血液浄化センター



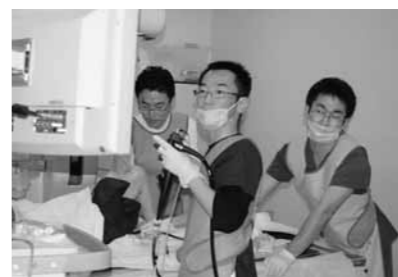
全33床すべてが個室化された透析室



医師との連携もよい手術室のスタッフ



消化器病センターのスタッフと高い技術力を誇る検査の様子



医療法人社団明生会琴似ロイヤル病院（山本悦永院長・岡本弘子看護部長）は、昨年、これまでの慢性期病院から急性期病院へとシフト転換し、新たなスタートを切りました。地域とともに歩む病院づくりへまい進する同病院を紹介します。

昨年、増築した新病棟の3階フロアに、消化器病センターを開設。以前は、外来所属の内視鏡室でしたが、独立の部署となったことをはじめ、検査室が大幅に増えたことで、月の検査件数も以前の3倍以上となる190件ほどに及んで

います。

MRI（1.5T 32ch）や最新の内視鏡設備を揃え、すべての消化器疾患に対応し、万全の体制で患者を迎えています。

同センターの上野朋美主任は、センター開設からの1年を振り返り、

「とにかく、スタッフが本当によく頑張ってくれました」と言い切ります。震災の影響で物資が届かない中、各スタッフが持ち前のチームワークと粘りで、さまざまなアイデアや工夫を持ち寄りながら乗り切ってきました。

「本当に手探り状態でしたが、どのように安全な医療を提供していくか、みんなで意見を出し合いながら作り上げていきました」。

内視鏡を勉強したい、あるいはスキルアップには最適の環境

センター立ち上げに合わせ増員となった医師たちも、教育的・研究的な視点を強く持っており、「私たち看護師にも熱心に教えてくれますし、質問にも親身になって答えてくれます。内視鏡を勉強したい、あるいは内視鏡のスキルアップを目指す方にはお勧めの病棟です」と上野主任は胸を張ります。

病棟看護の基盤づくりに追われた11年度でしたが、12年度に目指すところは、やはり「内視鏡看護を深める」。荒波をともに助け合いながら乗り越えてきた仲間と共に、目指す看護に迷いはありません。

同病院の原動力は「自ら考え行動するスタッフ」と「話し合えるチーム」

同病院初の手術実施に向け、昨年手術室では、まさに医師、看護師を始めとしたスタッフが、一丸となって前進してきた1年でした。震災の影響で機器等の搬入が間に合わない中、現状でできることを確認。安全でスムーズな手術実施へ、事前に、さまざまなケースを想定したシミュレーションを何度も繰り返し行ってきました。器械などが完全にそろわない

中、新採者や異動で集った者同士が最善を尽くす行動が求められたと振り返る佐藤由美子師長は、「看護スタッフは、本当にいろいろなことを学ぼうとそれぞれが頑張った1年でした」と話します。スタッフはすべて経験者ですが、単なる経験者ではなく、病院や手術室などの全体の状況を捉え、自

ら考えて行動するメンバーがそろったことから、「本当に助かりますし、うちの財産です」。

全国的にもめずらしく外来透析室（33床）を全室個室化した血液浄化センターでは、風通しのよいスタッフ間の連携を武器に、患者にとって快適、安心、安全の透析医療を日々実践しています。

昨年、新病棟での稼働を開始。ワンフロアとは違う全室個室という状況下で、いかに安全に透析を行うか、看護師、臨床工学技士が分け隔たりなく意見をぶつけ合い、「患者さんにとって何が最善か」を追求してきました。

佐々木紀子師長は、「うちのうりは、やっぱりチームワーク。話し合えるチームですね。透析未経験者もいますが、随時、みんなで教え合う土壌もできています。また、全室個室の透析室はあまりないので、興味のある方からの問い合わせもあります」と笑顔で話します。



岡本弘子看護部長

当病院は24時間保育所を完備し、子育て中の師長がいるなど、働く環境を重視しています。今後も職員を大事にしながら、安全・快適な医療を提供していきます。